

そ こ び き あ み

ぎ よ ぎ よ う

[がいこくじん ぎのうじっしゅうせい よう きょうざい]

だいにほんすいさんかい

はじめに

この きょうざいは あなたがた がいこくの かたがたが
にほんの 「そこびきあみ ぎよぎょう」の ぎのうじっしゅう
を うけるときに やくだつように さくせい しました。

なれない にほんごの きょうざいですが みなさんが
わかりやすいように 「そこびきあみ ぎよぎょう」 について
やさしく せつめいして あります。

もし わからない ところが あれば ぎのうじっしゅう
しどういんや にほんじんの のりくみんに しつもんして
きそてきな ちしきを いちにちも はやく みに つけて
ください

もくじ

1. そこびきあみ ぎよぎょう
2. そこびきあみ ぎよせんの かたち
3. そこびきあみ ぎよぎょうの ぎよぐ
4. そこびきあみ ぎよぎょうの ぎよじょう
5. そこびきあみ ぎよぎょうの あみの ひきかた
6. とった さかなの しより
7. きけんの ぼうし

1. そこびきあみ ぎよぎょう

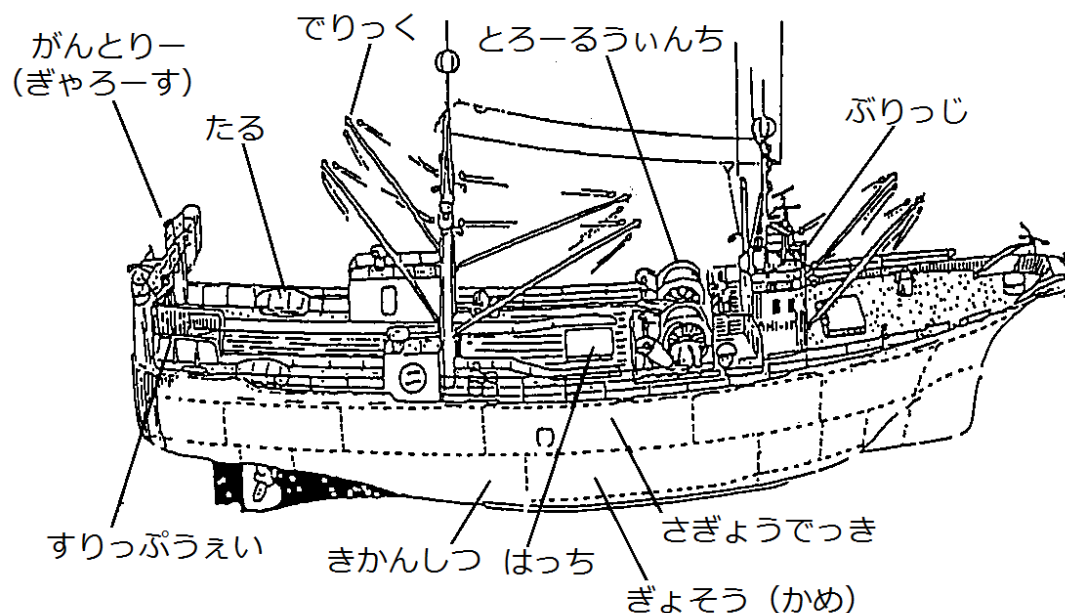
かいてい（うみの そこ）や そちかくに いる さかな、 かに、 えび、 いか、 たこ などをとる ぎよぎょうです。

そこびきあみ ぎよせんには あみを 1せきの ぎよせんで ひくもの（1そうびき）と、 2せきの ぎよせんで ひくもの（2そうびき）とがあります。

2. そこびきあみ ぎよせんの かたち

ふねの おおきさは 15～160とん（15～160t）ぐらいです。

あみを うしろ（とも）から おろしたり ひきあげたりする ふねには「すりっふうえい」があります。

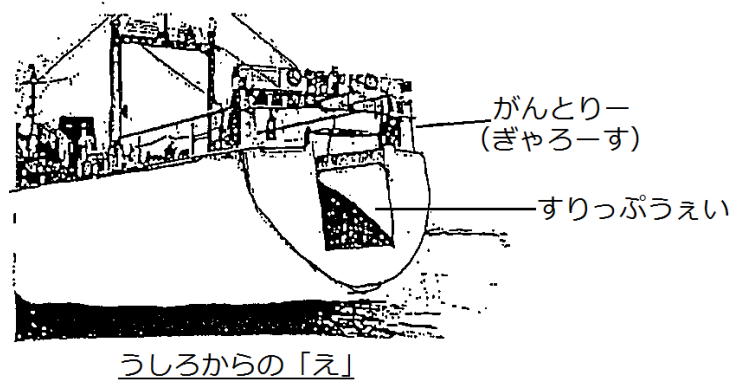
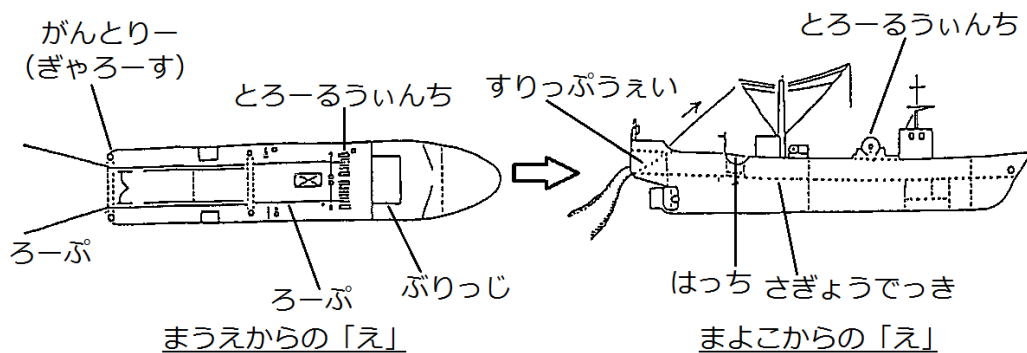


すりっふうえい : あみを ひきあげるために とも（せんび）が
ななめになっている ところです。

とろーるういんち : ろーぷを まきとる きかいです。

がんとりー : おったーぼーどを つりさげる せつびです。
(ぎゃろーす)

でりっく : あみを ひきあげる せつびです。



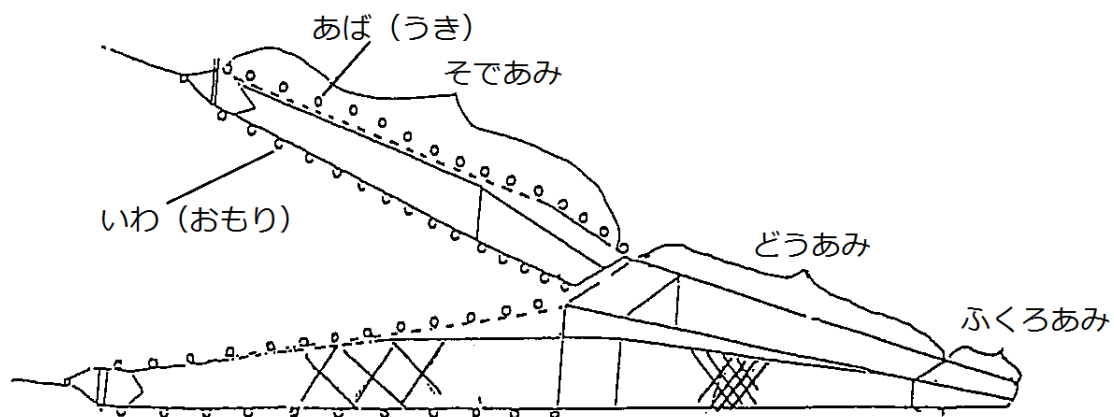
3. ぎょぐ (さかなを とる どうぐ)

(1) あみ

どうあみの りょうがわに さかなを あつめるための
そであみが ついています。

そであみの あみめは どうあみや ふくろあみより
おおきい ものを つかいます。

そであみの うえには あば (うき) が つき、
したには いわ (おもり) が ついています。



(2) おったーぼーど

あみの くちを ひろげるために つかう おもい いたです。

(3) ろーぷ

あみを ひく ろーぷには 「わいやーろーぷ」 や
「こんぼうんどろーぷ」が あります。

ろーぷ (わいやー) の ながさは ぎょじょうの ふかさによって
かわります。

4. ぎょじょう (さかなを とる ばしょ)

ぎょぐんたんちきを つかって かいでの ようすを しらべ、
ぎょじょうを きめます。

とる さかなの しゅるいや きせつにより あみを ひく うみの
ふかさや ぎょじょうが ちがいます。

ふつう 500~600めーとる (500~600m) より あさい
ところで あみを ひきます。

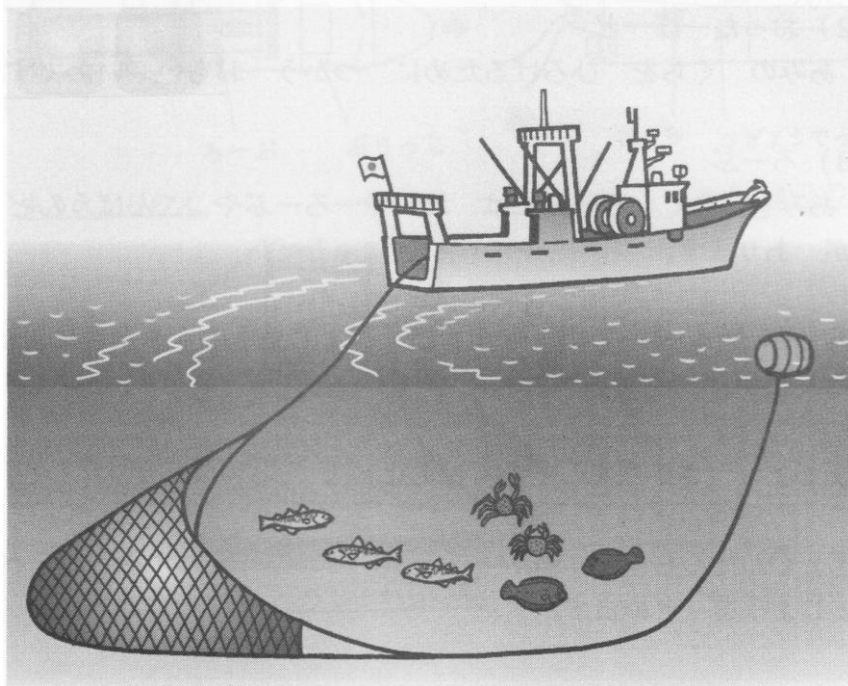
1,000めーとる (1,000m) ちかくの ふかい うみに あみを
いれることも あります。

5. あみの ひきかた

ちほうや ぎょじょうに よって、 あみの ひきかたが ちがいます。

(1) かけまわし

1せきで おった一ぼーどを つかわないで あみを ひきます。



たるを うみに おとし、 かたほうの ろーぷを のぼし、 ぞであみ、 ふくろあみ、 ぞであみの じゅんに あみを 入れて いきます。

うえの えの ように あみと ろーぷを いたら、 たるを ひろい ろーぷを ふねの うしろに むすびます。

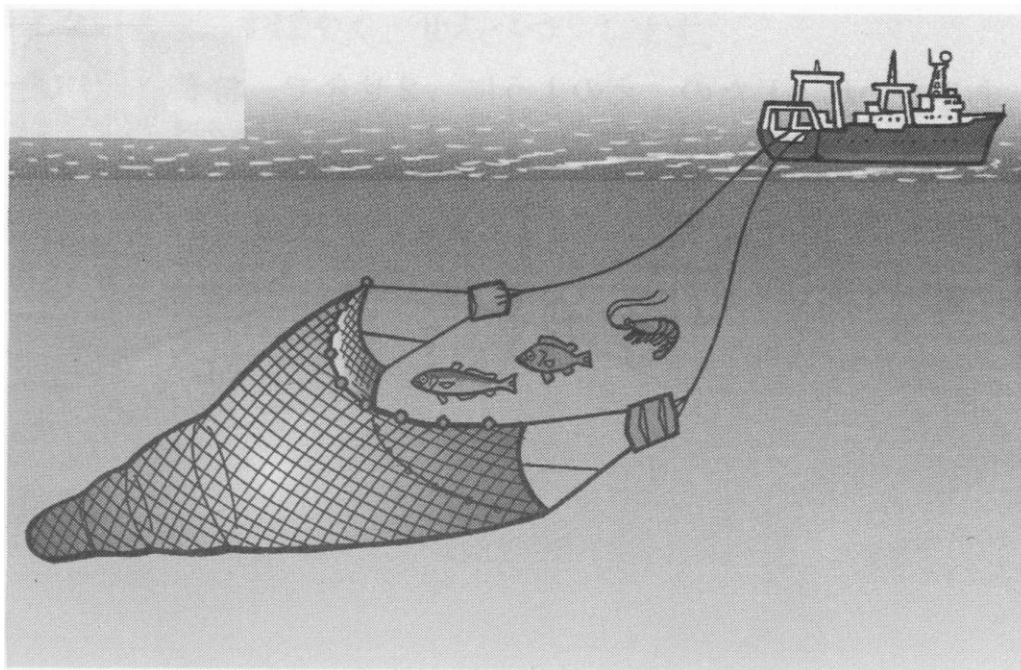
しばらくしてから えんじんを かけ、 おそい すぴーどで ひきます。

そのあと りょうほうの ろーぷを いっしょに まきとります。

ぞであみ、 ふくろあみの じゅんに とりこみ、 ふくろあみから さぎょうでつきに さかなを とりだします。

(2) いたびき

1 せきで おったーぼーどを つかって あみを ひきます。



おそい すびーどで はしりながら すりっふうえいから ふくろあみを
いれ、 つぎに そであみを いれます。

おったーぼーどを りょうほう いっしょに おろし、 わいやーを
のばしていきます。

それから とろーるういんちの ぶれーきを かたく しめて おそい
すびーどで ひきます。

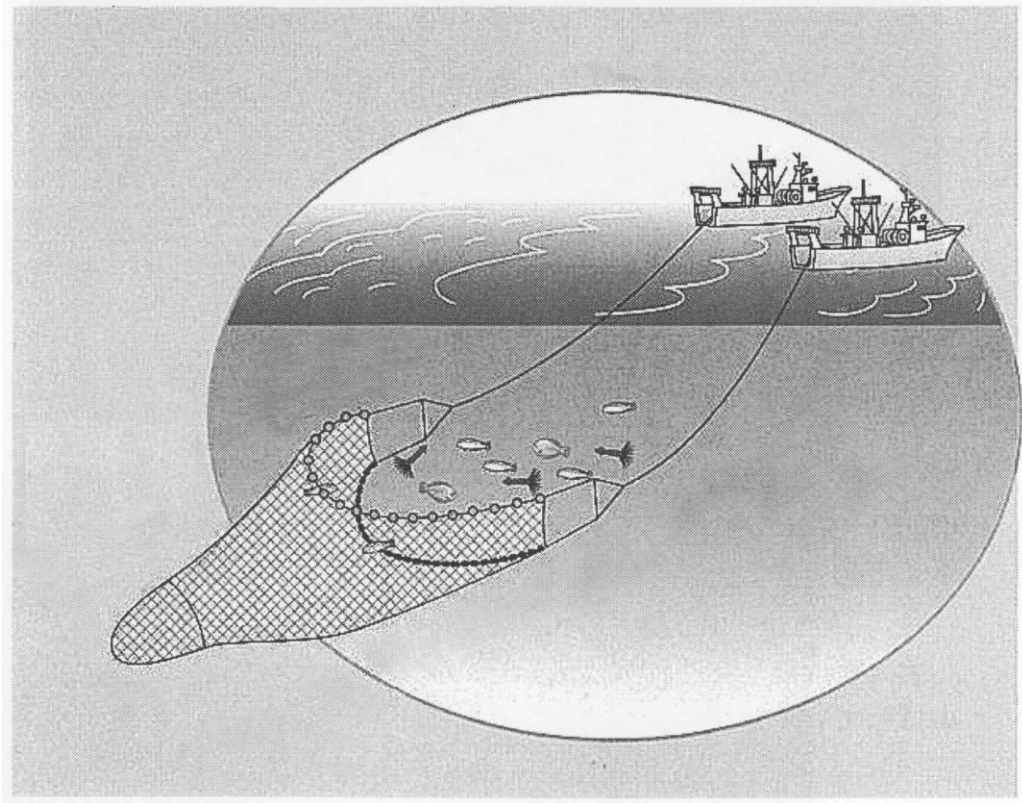
あみを ふねに ひきあげるときは、 はじめに わいやーを ういんち
で まきあげます。

つぎに おったーぼーどを がんとりー(ぎゃろーす)に つりあげます。

それから そであみ、 ふくろあみの じゅんに でつきに ひきあげ
ふくろあみから さかなを とりだします。

(3) 2そうびき

2せきの ぎよせんが ひとくみで あみを ひきます。



2せきの ふねは それぞれ おなじ かたちの あみを つんでおり
その あみを こうたいで つかいます。

あみを いれ うえの えの ように 2せきで おそい すぴーどで
ひきます。

あみを あげるときは、 りょうほうの ふねを ちかづけ あみを
まきあげる ふねに わいやーを わたします。

この さぎょうを 「こぎよせ」、 または 「よせ」 と いいます。

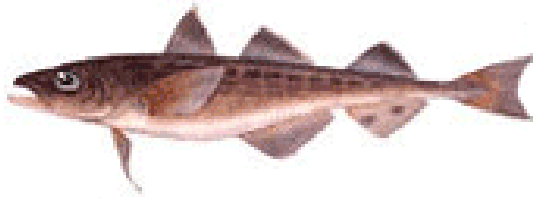
わいやーを わたされた ふねは うしろから あみを まきあげます。

6. とった さかなの しより

さぎょうでっきの うえで さかなを せんべつし はこに います。

さかなの しゅるい おおきさに よって ねだんが ちがうので、
まちがえないよう すばやく せんべつ します。

とくに すけとうだら と まだら、 まだい と きだい (れんこだい)、
するめいか と やりいか、 ひらめ と かれいは まちがわないようにし
ます。



すけとうだら



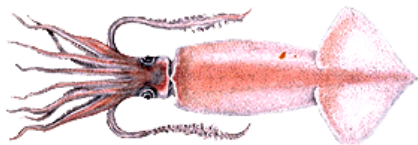
まだら



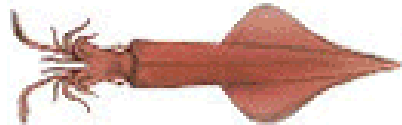
ひらめ



かれい



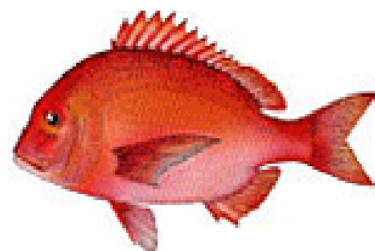
するめいか



あかいか



まだい



きだい (れんこだい)

7. きけんの ぼうし

そこびきあみ ぎよせんは ふねの なかが せまく ゆれるうえに
わいやーや ういんちが うごいているので、 さぎょうするときは
じゅうぶん ちゅういする ひつようが あります。

[ちゅういする ところ]

- ①まわっている ういんちの ちかく
- ②つよく はっている ろーぷや わいやーの ちかく
- ③すりっぷうえいや げんもの ちかく
- ④あみを つりさげているときの でりっくの した
- ⑤ろーりんぐているときの ふねの りょうわき (さいど)
- ⑥ああぶらや さかなの ちで すべる でつき